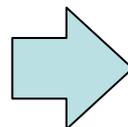


# まちづくり実行計画の策定に向けた考え方

平成 23年 4月15日  
尼崎市総合計画審議会資料

## これまでに審議会で取り上げた社会的背景

- ・ライフスタイルの変化、ニーズの多様化。
- ・情勢の変化が激しい。
- ・これまでの経験を元に将来を予測することが難しい。



- ・画一的な行政だけのサービスの供給体制には限界がある。
- ・市民や民間事業者、行政等の連携による「公共的サービス」が必要になる。

時代の変化への柔軟な対応が必要

		これまでの総合計画 (行政がまちづくりを進める上での計画)	新たな総合計画 (尼崎市全体で共有し進める計画)
構想部分		都市像とそれを支える行政分野ごとの将来像を描く。	多様な主体が共有できる、将来の「ありたいまち」の姿を描く。
計画部分		<p>構想にある将来像を受けて、課題を細かく分析し、その解決に向けた手段や主な行政の役割を描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別テーマごとに取り組むため、特定課題への対応には効果的。</li> <li>・他のテーマとの重複する部分や足りない部分が見えにくい。</li> </ul>	<p>「ありたいまち」の実現に向けて、施策ごとに取組み方向をまとめ、その取組みに当たる各主体の役割を描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施策ごとに何ができるかを考え、取り組むようにする。</li> <li>・大きな方向性を共有することにより、向かうところは同じとなるよう配慮。</li> <li>・全体を見通し、施策間の重複等が改善されるよう配慮。(情報交換・連携)</li> </ul>
イメージ	構想部分	<p>&lt; ツリー型 &gt;</p> <p>第2次基本計画では、6部、17章、43節、227施策展開方向</p>	<p>&lt; マトリクス型 &gt;</p> <p>共通する「まちづくりの進め方」</p>
	計画部分	<p>= 課題への対応方向</p> <p>= 細分化された課題への対応方向</p>	<p>= 施策においてありたいまちに向けた施策の展開方向などをまとめる</p>